

開会挨拶—序にかえて

佐賀大学芸術地域デザイン学部長 小坂 智子

2017年2月に、国立大学法人佐賀大学は、独立行政法人東京文化財研究所と、「染織品を中心とする文化財の保存にかかる共同研究」の締結を行いました。これは東京文化財研究所文化遺産国際協力センターの中山俊介センター長と、本学芸術地域デザイン学部石井美恵准教授が中心となって進められました。この共同研究が、これから先どのような実を結んでいくのかというのが肝要なところです。そこで、キックオフ研究集会を行うこととなりました。

本日は、東京文化財研究所から山梨副所長にお越しいただきました。今日お話しいただく東京文化財研究所の中山先生、文化庁美術学芸課の輿石先生、京都国立博物館の山川先生、東京国立博物館の小山先生、そして、東京文化財研究所の菊池先生にもここ佐賀まで、足を運んでいただきました。予報最高気温36度の暑い佐賀まで来ていただきましたこと、心より御礼申し上げます。

こうした研究集会が開催できることは、2016年4月に開設されたばかりの芸術地域デザイン学部にとっては大変喜ばしいことです。本学部は「芸術で地域を拓き、芸術で世界を拓く」を掲げ、芸術を通して地域創生に貢献する人材、地域活性化や国際化という喫緊の課題に貢献することのできる、感性豊かな人材の育成を目的としています。

本学部が構想された背景には、佐賀県立有田窯業大学校と佐賀大学との統合があり、さらには、佐賀大学の強みといえる美術・工芸教育の60年余りの伝統があります。一方で、現代の日本においては、地方創生や文化芸術立国が求められ、芸術的感性や視点を有し、芸術を総合的にマネジメントし、プロデュースすることができる人材育成が課題とされています。本学部の地域デザインコース・キュレーション分野では、博物館学芸員を養成するとともに、文化財に関わるさまざまな領域のことを学び、文化財保護に携わる人を育成します。

こうした人材を育てるためには、何よりもその土台となる研究が必要です。共同研究に関する協定はその礎となるものです。

本日、諸先生方にご講演いただくことは、佐賀錦や鍋島段通といった染織文化を育んできた佐賀の地に学ぶ学生たちにとって、染織文化財の保存を学び、考える素晴らしい機会となることでしょう。同時に、共同研究の推進に向けて大変良いスタートを切らせていただくことができることに、関係者の方々にお礼を申し上げて、私のごあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。